

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/地域看護学】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
地域看護援助論Ⅱ		NSP33_002	必修	1	3	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
馬淵 路子 他		305	m.mabuchi	金曜日 12:10～13:00		
授 業 の 目 的 ・ 概 要	病院入院中からの退院支援、自宅での在宅療養支援において、本人・家族等の想いを尊重した看護活動のつながりを意識し、地域の中での暮らしを見据えた看護の実践を学修する。具体的には、対象者の把握から訪問援助の実際までを退院後の生活場における特徴を加味してアセスメントし、看護援助の立案、実施までを模擬事例演習を通して学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムにおいて住み慣れた地域で最期まで生活することを住民がどのように希望し、看護職に求めるニーズは何かを明らかにするために、地区めぐりを実施して地域看護の理解を深める。					
授 業 形 式 ・ 方 法	☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学习) ☒講義 ☐実習 ☒実技 ☐PBL ☒グループワーク ☐その他（ ） ☐反転授業 ☐プレゼンテーション ☒実習・フィールドワーク ☐ディスカッション・ディベート					
学 習 上 の 助 言	在宅療養者や家族等のその人らしい生活ができるように、看護の力で何ができるか。積極的に事例演習に取り組むことで、看護実践への期待を膨らませてほしい。					
教 科 書	ナンシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア/編:臺由佳 他 /メディ出版 /2025 ナンシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 /編:臺由佳 他 /メディ出版 /2025					
参 考 書						
外 部 教 材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	対象特性に応じた生活・介護ニーズ、医療ニーズのアセスメントを説明できる。			NS(1)～(4)		
②	在宅における療養者と家族が安心・安全に療養を継続するための看護計画を立案できる。			NS(1)～(4)		
③	立案した看護計画を RP にて実施し、療養者や家族等に合わせた関わり方を理解できる。			NS(1)～(4)		
④	地区めぐりから、地域の社会資源や住民のニーズ・生活実態を知ることができる。			NS(1)～(4)		
⑤	地域における看護活動への興味を深め、臨地実習への意欲を高めることができる。			NS(1)～(5)		
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1・2	在宅療養者や家族が生活する地域を知る方法を学ぶ		講義・GW	看護師が地域を知る必要性や方法をまとめる。		2
3・4	地区めぐりの実際		フィールドワーク	地区めぐりにおける体験を振り返る。		2
5・6	地区めぐりの実際（まとめ）		GW	地区めぐりの成果から学びを得てまとめる。		2
7・8	在宅看護過程の展開方法を学ぶ 事例を用いた在宅看護過程演習 ① 情報の整理とアセスメント		講義・GW	事例について病態や治療・看護について調べる。		2
9・10	事例を用いた在宅看護過程演習 ② 情報の整理とアセスメント・看護課題の抽出		講義・GW	在宅看護過程に必要な知識をまとめる。		2
11・12	事例を用いた在宅看護過程演習 ③ 看護目標の設定、看護計画立案		講義・GW	在宅看護過程に必要な知識をまとめる。		2
13・14	事例を用いた在宅看護過程演習 ④ ロールプレイによる看護ケア模擬実践		講義・GW	ロールプレイを振り返り学びをまとめる。		2
15	地域看護学関連授業のまとめ 地域看護学実習に向けた心得を学ぶ		講義	在宅看護関連の授業での学びをまとめる。		1
試	レポート試験 達成度評価・評価ポイント参照					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/地域看護学】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	20	30	30	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	0	0	5
	思考・推論・創造する力	0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	10	20	35
	問題を発見・解決する力	0	5	0	10	0	15
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①		在宅看護過程の演習を通して学んだ在宅看護療養支援の必要性を考察し最終レポートを作成する。	フィードバックを行う。			
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	模擬事例において立案された看護計画を実演により発表する。他者の発表からの気づきや学びを学生同士で意見交換し共有する。	成果発表について講評を行う。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	アセスメントに必要な知識や、看護実践に必要な方法、各アセスメント段階で調べた資料を順序良くファイルしたものを提出する。	フィードバックを行う。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
その他	①	✓	講義・演習・GWの主体的な態度を評価する。 全日程に出席を前提とし、理由のない欠席は授業への取り組み姿勢・意欲の不足と捉える。	遅刻、途中退席、欠席が続く場合は個別に指導する。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員		望月 宗一郎					
教 員 の 実 務 経 験		担当教員（馬淵）は、病院の看護師として12年（地域連携室・外来含む）、行政保健師として5年の実務経験を有する。					
実践的授業の内容		看護師や保健師としての経験を基に、地域で生活をされている療養者やその家族等の具体的な事例を交えながら講義を勧め、実践をイメージしながら知識と技術の習得を目指す。					
そ の 他		・補助：河西 美生、石原 杏夏 ・授業中の私語、他学生の迷惑になる行為は禁止する。教員に質問がある場合は、手を挙げて意思表示し質問すること。					